

日本語教育史を 100 倍面白くするウラ知識

日本語教師教育者のための 50 項目指導法研修セミナー
文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業（近畿ブロック）

南山大学 人文学部 上田崇仁

1. 言葉は変わる — 教科書も変わる

- 豚はなんと鳴くか
 - ・夏目漱石『夢十夜』（1908）
 - ・『普通学校国語読本』1931 年版／1937 年改訂版
 - ・「ぐう」から「ぶう」へ

言葉は固定的なものではない。

教科書もまた、時代の中で変化する。

▶ 私たちはどれだけ「言葉は変わる」という前提を意識しているだろうか。

2. 100 年前と今 — 外国人労働者をめぐる言説

- 1918 年 西日本新聞「朝鮮人を使へ」
- 2018 年 骨太の方針「即戦力となる外国人材」

100 年前と現在。

構図はどこまで変わっているのだろうか。

▶ 外国人を安価な労働力としか見ていないのではないか。

私たちの振る舞いは何の変化もしてない。

3. 教材は何を運ぶのか

- 植民地期教科書の変化
 - ・「日語」から「国語」へ
 - ・飛行機の発明
 - ・色服の奨励
 - ・言葉遣い

教科書は、単なる言語教材ではない。

そこには政策や価値観が反映される。

■ 電話教材の変化（1943→1944）

1943年：日常会話教材

1944年：「電話は兵器」

- ▶ 教材が変化したとき、教師はどう感じただろうか。
- ▶ 今、私たちの教材が同じように変化したら、どうするだろうか。

4. 教育内容は誰が決めるのか

- ・ 学習者のニーズか
- ・ 教育者の判断か
- ・ 国家の政策か → 国家資格化、教員養成必須の50項目
 - *項目は決められても細かい内容は決められていない
 - だけど、資格試験がある。

私たちは、その中でどこに立っているのだろうか。

5. 規範とは何か — 漂流民と日本語

■ ゴンザ・デンベイ・タターリノフ

彼らが話した日本語は、日本では「方言」。

しかしロシアでは規範の「日本語」として教材化・辞書化された。

- ▶ 規範とは、どこで決まるのか。
 - ▶ 「正しい日本語」とは何か。存在するのか。
- 私たちが教えている日本語は、誰にとっての日本語なのだろうか。

6. 本気で学んだ人々 — 宣教師

- ・ 『日葡辞書』（1603）
 - ・ 女性語・卑語・方言の収録
 - ・ 社会的変種への関心

必要があれば、人は言語を深く学ぶ。

- ▶ 日本語教育は、何のために存在してきたのか。

7. 日本語教育史を学ぶのはなぜか

日本語教育史は、年代や項目を覚えるためのものではない。

それは、

- ・ 私たちは何を受け継いでいるのか
- ・ 私たちは何を換えられるのか
- ・ 私たちは誰のために教えているのか
- ・ 私たちは当時の「先輩」の振る舞いから何を見るのか

を考えるための手がかりである。

歴史を知ること、過去を暗記することではない。

【今日の問い（メモ欄）】

- ・
- ・
- ・



当時の教科書だけでなく、語学学習用レコード、紙芝居、入試問題、公務員の採用試験、ラジオ講座（語学に限らず料理番組なども）、チラシ、アルバム、映画、流行歌などを集めて、当時の日本語教育を社会全体から見ていこうとしています。

★E-mail : tueda@nanzan-u.ac.jp

★URL : <http://koyangyi.wixsite.com/uedalabo>

★Youtube チャンネル : 【日本語教育史事始め】 <https://www.youtube.com/@nihongokyoikushi>

★日本語教師養成・研修推進拠点整備事業・中部ブロック（南山大学） : <https://nihongokyoten.com/>